

# 熊野森・里山通信

2017年度号

- ・発行：川崎・多摩丘陵の里山を守る会
- ・会員数：38名（2017年12月現在）

## 森の径路づくりに挑戦しました

里山を守る会では、「明るい森作り」を長年の目標として掲げており、その一環として「散策路」の作成を今年から始めました。

現在、未長熊野森緑地の梶が谷側傾斜面は、木がうっそうと茂り、会員以外は除草作業の関係者くらいしか踏み入らない、ほぼ手付かずの領域です。しかし、ラン等も自生しており、日光が差し込むことでより多様な植生が期待できます。

7月には神奈川県森林インストラクターの指導者をお招きし、また先方の計らいもあって熊野森緑地にて階段作りのレクチャーが行われました。当日完成した階段は4段で、その後の定例作業にてさらに1段を追加し、現在5段が完成しています。木の杭を地面に打つ工程はかなりの肉体労働を要しますが、静かな森にコーンコーンと乾いた音が響き、何とものどかな気分になりました。

(荻野ススキ)





# 久保台公園まつり、盛況でした



今年の久保台公園まつりは、当初2月5日の土曜日に行う予定でしたが、雨天のため翌日に順延しました。当日は、ご来場くださった人数が例年に比べてちょっと少ないように感じられましたが、みんなと一緒に楽しいひと時を過ごしました。

このおまつりでは、近隣の住民の方々によるフリーマーケットの出店の他、里山を守る会の活動の広報を含め、食品販売、地場野菜の販売、竹細工のおもちゃコーナーなど、毎年趣向を凝らしながら行っています。

「毎年、公園の外から見てました」とか、「前から気にかけていたので今年は遊びに来ました」など、このおまつりに関心をお持ちのお客様が多く見られました。

特にヨモギ団子については、「末長の畑で摘んだヨモギを使用しています」と言うと、大変驚かれて感激してくださる若いお母さんたちが大勢おられ、私たちも当日までの苦労が喜びに変わります。次回は、「野原で摘んだどくだみのお茶ですよ」や、「末長熊野森緑地に自生しているヤマグワのジュースですよ」とご提供したらどんな反応かなあと、期待に胸が膨らみます。自然の恵みをご提供させていただくことによって、私たちの活動をご理解いただければと思っております。(かつら 桑)



## 植物観察会を今年も開催しました

6月3日（日）に、テーマ「熊野森緑地の初夏の魅力を探る」を掲げ、末長熊野森緑地にて植物観察会を行いました。当日は、神奈川県森林インストラクターの小林先生をお招きし、「自然界での物質の循環」について講話をいただき、末長熊野森緑地の植物から生物多様性を改めて考えることができました。

当日、緑地では開花しているものが少なかったですが、花の形が釣鐘状でベルのようになっている「ホタルブクロ」が咲いていましたので、少し採取して小林先生からのご説明やルーペを使いながら、ガクや花の袋の中の雌しべ・雄しべの構造などを観察しました。

また、観察会の後半は小林先生のお知合いで、東高根森林公園草笛サークルの原田先生のご指導により草笛教室が行われました。模範演奏のあと、参加の皆さんで草笛にチャレンジしました。草笛を綺麗な音で奏でることが難しかったですが、大変盛り上がりました。



楓 まあさ

# 日帰り研修旅行

## 「鶴見川の源流を訪ねて」に参加して

2017年10月8日(日)、鶴見川の源流を訪ねる日帰り研修を行いました。

今回の目的地「鶴見川源流」は、町田市北部、多摩市との境に近い小山田という町で、多摩丘陵の山に囲まれた、自然が色濃く残る田園地帯です。

今回の日帰り研修旅行は、ここを起点に小山田緑地、「図師小野路自然環境保全地区」の「奈良ばい谷戸」をめぐる約10kmの行程です。以下の2点が印象的でした。

まず1点目は、小山田緑地の「エコパッチ」です。「エコパッチ」というのは、直径3~4mの周囲を杭とロープで囲み、そこだけ草刈りをせずに生息する植物や草むらを好む昆虫などを生態系ごとそのまま残しておくものです。刈り込まれた広場に残る3~4つの「エコパッチ」は強く印象に残りました。末長熊野森緑地にも応用できそうです。

2点目は、「雑木林」「湧き水」「田んぼ」が揃った典型的な里山である「図師小野路自然環境保全地区」の「奈良ばい谷戸」です。

この地区は「東京における自然の保護と回復の条例」により設置されたもので、貴重な野生動植物が生息する豊かな里山の自然環境を保全するため、地域住民からなる管理組合によって維持管理が行われています。なかでも「奈良ばい谷戸」は、かつての里山らしさが色濃く残る、美しい里山として知られている場所で、現在NPO法人によって伝統農法を用い維持管理されています。

当日は、稲刈りの最中で、たわわに実った黄金色の稲穂と刈り取られた稲を天日干しするさまが見られ、鮮やかに実った柿のオレンジ色と相まって、まさに里の秋という印象でした。手入れされた里山の美しさとのどかさに癒される一日でした。(Z)

【P.S.】野菜販売所で購入した秋の味覚(持参コンロで焼いた椎茸など)も最高でした。

### 定例活動

毎月第3日曜日の9時半から定例活動を行っています。末長久保台公園に集まり落ち葉やごみの清掃、樹木の茂りすぎた枝を払って公園が明るくなるようにしています。それから日本タンポポ自生の道を通ってターザンの木の様子を確認し、末長熊野森緑地に移動します。

熊野森では小枝払いや草刈りが普段の作業です。また春にはタケノコ堀りやアンズの収穫もあります。利用者に気持ち良く利用してもらえる様に散策路に覆いかぶさる蔦などの取り除きもします。落ち葉での堆肥づくり用の柵の補修を伐採した竹を材料として実施しました。普段は活動後に簡単な軽食の交流会で一服します。喜多





# 畑だより

里山活動を続けながら体験学習として始めた畑作業も、今年で7年目となりました。

年を経て得た知識と、まだまだ試行錯誤を繰り返しながら、野菜作りを楽しんでいます。育てる難しさも実感させられています。

6月初旬に収穫期を迎えたジャガイモは、小粒ながら嬉しい収穫量がありました。

しかし、6月に植えた数種の夏野菜は、これまでに無く天候の影響を受けました。

特にたっぷり水を必要とするナスは、空梅雨のため成長期に背丈を延ばせず、加えて8月は雨ばかりと日照も不足で、収穫量も質も今までで一番良くありませんでした。

トマトは、幸い水をあまり必要としないため、手作業の水やりで成長してくれて、大きな実が収穫できたのは、夏野菜を育てた唯一の救いでした。

10月現在、畑には、ネギ、遅れて実をつけ始めたシシトウやピーマン、それにレモングラスの他、冬野菜の大根の苗、春に摘めるノラボウ菜の苗が育ち始めています。順調な生育を願うばかりです。



## 「川崎・多摩丘陵の里山を守る会」第18回総会の報告



近隣で自然と触れ合う体験は、感動の発見であり、癒しでもあります。

2000年から活動が継続していることは、地域活動の必要性もあり、四季を感じられる喜びもあり、仲間との交流もあり、各々の心の中に残る宝になってきたことと思われま

す。2017年5月21日 第18回総会を規約に基づき開催しました。

2016年度活動報告、2017年活動計画案、収支決算報告、運営委員および監事の選任等、すべての議案が承認されました。総会後は、懇親会が行われ、多少御酒も入り、ざっくばらんな雰囲気

で楽しむことができました。いろはもみじ

### 2018年6月までの活動計画

◆定例作業（原則第3日曜日）：

2018年1月21日、2月18日、3月18日、4月15日、5月20日、6月17日

◆活動場所： ・末長久保台公園（午前9時半～10時半）

・久本山ターザンの木緑地

・末長熊野森緑地（午前10時半～11時半）

### 2018年度会費（1,000円）の納入について

下記振込み要領で納入をお願いいたします。

① ゆうちょ銀行でのお振込みの場合

振込口座 記号 10260 番号 63488511

名前 カワサキ タマキュウリヨウノサトヤマヨマモルカイ

② ゆうちょ銀行以外の金融機関からお振込みの場合

金融機関名 ゆうちょ銀行

振込口座 店名 〇二八（読みゼロハ） 店番 028

預金種別 普通預金 口座番号 6348851

川崎・多摩丘陵の里山を守る会

【問合せ・連絡先】

URL <http://www.k-satoyama.org>

E-mail [info@satoyama.org](mailto:info@satoyama.org)

(2017年12月発行)